

同志社百周年を

迎えるにあたっての

展望

総長

理事長

校友会理事

精華短大学長

大阪水上隣保館長

連合父兄会長

元同志社女子大教授

司会

本部庶務部長

大学庶務課長

住谷悦治

秦孝治

奥村龍三

岡本清一

中村清一

河村喜四良

中村喜四良

大田直吉

杉田直吉

編集部 この座談会は、五年後に同志社が

百周年を迎えるに際して、同志社教育、学園

の教育環境、同志社の未来像等について、御

出席の方々に展望して頂きましたが、不本意

ながら紙面の都合で、同志社教育の項に関し

ましては割愛させていただきます。この項

につきましては次回に掲載させていただきます

く思います。

同志社の教育環境

大江 引き続き、皆さんのご意見を伺い

たいと思いますのは、同志社の一つの問題と

して教育環境の問題があります。現在、ご存

じのように今出川キャンパスを中心にして同

志社があります、ほかに香里と岩倉にあり

ますが、今出川キャンパスでいたい八五%

くらい学生・教職員がおるわけなんです。こ

存じのように今出川キャンパスだけでは狭い

という問題もあります。こういう教育環境を

整備して、教育条件のもっといい場所をみつ

けてはどうか、そういう問題もこのさい考え

るべき時期に来ているんじゃないかと思いま

す。

その一つの根本の問題として、同志社の学

生数を簡単に申し上げますと、大学の一部と

二部を寄せまして一九、六八一人、だいたい

二万人という数になっております。その大学



共学以外がだいたい九〇〇人余りになりまして、両方合わせますと、二万八千五、六百人というところがだいたい現在の同志社の学生数であります。さらに教職員の数を申し上げますと、教員、職員いっしょにいたしまして一、二〇一人、だいたい一、二〇〇人という数をかかえておるわけです。それから同志社全体の予算が四十五億、そういう実情であ

りまして、今出川キャンパスを中心に同志社の教育がおこなわれているわけですが、この辺につきましても、やはり一つの問題があるのじゃないかと思っております。

そこで、将来の展望についてひとつ夢を語っていただき、教育条件の整備の問題であるとか、教育の場にふさわしい環境をつくるにはどうしたらいいかというような問題、あるいは新しい時代の学校教育といった問題を積極的に取り上げていただきたいと思います。

教育の問題はひじょうにむづかしい問題であります。教育の問題はひじょうにむづかしい問題である見があることと思しますので、お話を願いたいと思います。

まず秦理事長から、百年に向かつての展望について思い切って夢を語っていただいて、それから皆さんにそれぞれご意見を伺って進めたいと思しますので、よろしくお願いいたします。

案 簡単に申し上げます。九十周年の記念事業のときに、一、創立者の遺訓に基づく精神教育の徹底強化、二、法文系研究設備の充実、語学教育施設の拡充、三、理工学教育の拡大と研究所の充実、四、女子教育並びに幼

稚園教育の進展、五、奨学金制度の拡充と学生会館の完備、六、教職員に対する福利厚生改善、七、校地の拡張と体育施設の充実、八、植林による一〇〇年の大計と基金の安定、九、新島襄全集発刊と同志社史の完成、十、校友同窓連絡機関の強化、こういう十の目標を掲げて、五億の学債と一〇億の寄附金を計画したわけです。目に見えるもののうちからいうならば、相当できあがりまして、また皆さん方に直接間接いろいろごやっかいになったわけでございます。

さきほどおっしゃいました今出川校地は、ご承知のとおり近畿圏整備法というのがあります、五〇〇坪以上の教室は建てるわけにはいかない。おそらく同志社は、この今出川校地に、少なくとも大学と名のつく設備としましては、教室を新しく建てることは不可能です。そうすると、ただいまおっしゃいましたように、同志社大学だけ取るなら約二万人の学生を擁しているこの収容規模で今後いいかどうか、できるなら量より質という点で、もうふやさない、そして質的な教育を向上させていく。これがいちばん理想でございます。



秦 孝治郎氏

ところが、今後物価の上昇、あるいはまた給与の改善等をやりますと、年間一割ないし一割二、三分は支出の面で自然増するわけです。もし言うなら、いまの四十五億の予算は、いろんなものを抜きましても、少なくとも一割くらいはふえるというのが常識なわけでございます。したがって、六年たてば月給は倍になる。こういうことがいままでのしきたりになっております。あるいはまた計数の伸び率になっております。そう考えますと、経営というものは、今後が並々ならんことになると思います。いま昭和四十六年度の予算の編成方針を立てているのですが、大

次の理事会では、だいたい増加の方向に方針が決定されると思います。

そうなりますと、今後の同志社学園の今出川校地は、実際においてこれでいいのかどうか。ほんとうからいえば、公害とか騒音とかいう問題もございまして、やはり新天地を考えなければならぬという問題になってくるわけでございますが、しかし一たび移転というようなことを言いますと、これは大きな問題になりますので、今後は移転はしないけれども、新しい施設は新天地でやるべきだと考えるのが適当じゃないかと思っております。幸いにいたしましたして、九十周年の記念事業で田辺に約三十万坪の土地を手に入れました。これは必ずしも近い将来の同志社でないかもしれないけれども、新島先生の理想とされる二百年をめざしたならば、四万坪や五万坪の今出川校地であくせくしているよりも当然この問題は解決しなければならぬ。それから九十周年記念事業のなかの植林は、岐阜県で三十四万坪をいま植林中でございます。したがって、いちおう背伸びいたしたけれども、九十周年はまず一つの成長を

にたいしまして、いままでのようにただ単に土地をふやしたり、あるいは建物を増設したりするようなことだけでいいのか、もっと眼界を広くいたしまして、同志社は現在大学のほか十の学校がありますが、十の学校だけでいいのかどうか、教育機構のいろいろなバラエティはこれでよいのかどうか。私は就任のとき、いちばん最初に通信教育というものを取上げました。このごろは放送大学というのが言われ、毎日放送の教育会議の理事をやっております、種々放送も研究しておりますが、そういうものとかが、あるいはまた語学のためには寄宿舎に入って、二年間なら二年間は、英語なら英語、ドイツ語ならドイツ語ばかりやる。いままでのように忘れる時分にまた勉強するというような形では、語学教育は徹底しないのじゃないか、そういうことも考えております。

ひじょうに不完全なことを申しましたが、いちおう申し上げておきます。

大江 教育環境の問題で、理事長から、九十周年の記念事業をやった経過の概要と、百周年に向かつての同志社の現状をご報告になったわけですが、今出川キャンパスを含めて

新しい教育環境で新しい学校をつくるとか、百周年に向かったの展望であれば、積極的に夢を描くことが必要でないかという感じがしますが、そういう点について忌憚のないご意見を、どなたからでも結構ですから、お願いしたいと思います。

奥村 私は河北さんにお尋ねしたいんですが、中学を岩倉に早くもっていったらいいと思いますね。大学のこんななかでやらんと、岩倉に土地が余っているし、前から向こうで高校と中学をいっしょにするという案があったのですけれども、これは反対があったんですか。

河北 土地は岩倉に余っているんですか。移す余裕があるんですか。

奥村 あります。



奥村 龍三氏

住谷 中学を岩倉にもっていくということ、理事長も私も前から熱望していたわけです。いったい、大学の学生が赤いヘルメットでワッショ、ワッショやって、ラウドスピーカーでほうぼうで演説をやっている、あんなところで中学の先生も勉強できるはずはないんですよ。ところが、中学校の先生は、あそこでやれるというんですよ。やはり環境はよくしなければいけないと思います。

中村(遙) いまでもここにいるというのは全く不思議であって、早く中・高は岩倉に移っていくべきだったと思いますね。女学校も一部をむしろ新田辺に移すことも一案だと思います。地方から多数の学生を迎え、寄宿舎を充実する必要があるものは環境の良い場所がより教育的であると思われれます。日本人の感覚に合うんですね。ですから、又女子の短期大学を新田辺で新らしく創ることも一案だと思います。いずれにしても理事会が今以上に有力に発言して推進力となるべきだと思います。

奥村 同志社の理事会は力がないんだ。そこに問題がある。

中村(遙) 同志社は三十億とか借金があ

るという話ですね。その借金をふやさんようにして、減らしていきながらその力を外へ向けていかなくちやならぬ。そのためには、このなかでも合理化すれば、必ず金は浮いてくると思うのですが如何でしょうか。もちろん授業料は、一ぺん上げて関西学院のような問題を起こしても困るから、物価にスライドしてぼつぼつ上げなければならんけれども、どうしたって、仕事をしようと思ったら金があるんですからね。

秦 いまいわれた三十億というのは、もう二十億を欠けてきました。

中村(遙) そんなに少なくなったんですか。それはたいしたことです。秦理事長に、金鶏勲章です。(笑)

奥村 中学校の父兄会では、いまの問題はどういう意見ですか。

河北 いまの奥村さんのような話は、連合父兄会でも直接はつきりした話題にはなっておりませんがね。そういうことを承れば、連合父兄会の委員長会議で、一ぺん皆さんのご意見を問うてみますが、私個人としては、当然中・高が同じ場所にあることは望ましい。香里も中・高いっしょでございます。岩倉の



河北喜四良氏

場合でもいっしょであるべきだと思えますが……。

ただ、それだからこうだという性急な議論はしたくないが、香里中・高とも一緒にあるでしょう。だから、向こうの父兄会の委員長は中学も高校も兼務しているわけです。そして、なぜ大学に無試験で入れてくれないかという問題が強いんです。いまのようにテン・パーセント近く整理されて大学に入れていただけない。学部に拘泥しないで、大学のどこかの科に入れていただくということも、いま閉ざされているわけです。大学のなかに中学があって、ここにおるから、わりあい親しみもありますけれども、これが出てしまえば、その傾向が助長されると困るわけです。岩倉を出てきたものが大学に迷惑をかけ

ているとは、ぼくはけっして思わないんです。だけど、どうも大学の先生方の多数は、試験を受けて入ってきた高校の生徒は優秀だ、という既成観念があるんですね。現に遊ぶ生徒もいるかもしれないけれども、しかし、中・高と来た生徒は、同志社としてもだいいじだと思っんです。これは選ばれて来たんですからね。中学校へ入るのでも、女学校でもそうですが、クラスで五番以内でない同志社へ入れない。入る資格がないというより、先生が受けさしてくれない。クラスで七番ではだめです。そういう優秀な生徒が同志社中学に入ってくるんですから、これは中学の責任もあるし、高校の責任もある。そういう問題に多少発展することも覚えておいていただきたいんです。(笑)

住谷 いまひじょうに重要なことは、そういう優秀な小学生が中学に入って、高校と来て、大学へ入るときに、やはり残るんですね。私は、同志社の中学へ入るのは、大学へ入りたいんだから、なるべく残さんようにというて、一貫教育ということを前からいうて、わけてすけれども、きのう会議で有力な教授に会ったので、どうして高等学校の生徒をも

っと入れてくれんかといったところが、同志社の高校へ入ると、大学へ入れると思って安心してしまつて、学校へ出てこない。同志社の高校から大学へ来たものは、ゼミにも出てこないというんです。ちゃんと調査しているんですよ。高等学校の先生が、もっと大学へ入れてくれといつて交渉しても、同志社を出たものはさっぱり出てこないじゃないかといつて、なかなか承知しないんですよ。

河北 父兄会で承るところによりますと、慶応大学なんかは、幼稚園からずつと来ているものは、無条件で大学へ入れているそうです。それは成績によつて、たとえば医学部なんかは、上位から何番とかきまつているようだけれども、とにかくにも慶応は全部入れている。同志社はなぜ入れないか。それは生徒の責任もありますが、父兄の責任もある。先生の責任もある。(笑)むしろ大学の先生は中・高の先生に、なぜもつとしっかりやってくれないか、あるいは父兄会があるのですから、父兄にしっかりやつてくれと話をもつていかないか。同志社の高校はだめだというようなきめつけ方をされると、ひじょうに困るんです。ちよつとまずいですね。



住谷 悦治氏

住谷 高等学校のほうは、中学はいい生徒をよこさんといっている。大学は、高等学校はいい生徒をよこさんといっている。私は同志社教育というのは、点数がよいとか悪いとかいうことを標準にしてはいかんというのです。同志社の教育こそ、点数が悪くても、大学の先生がしっかりやって、有用な人をつくるようにしたらよい。ただ点数だけで人間を判断して、できる、できないといっているはいけな。同志社教育で何をやるかといえば、社会に役に立つ人材をつくる。成績がよいからよくやっているという考え方はいけない。

河北 社会にいったん出た場合に、一流銀行とかそういうところは、成績がどの程度なければまず推薦の資格がないということもありますけれども、現に同志社を出た人が関西

において、中小企業、とくに問屋業なんかで、二代目としてひじょうに活躍しているんですね。それは同志社大学におったときに、必ずしも成績がよくに優位であったとはいえないんですね。にもかかわらず、社会に出たときには、ひじょうに優秀なリーダーシップをもって経営している。そういう事実を私は多数見ておりますから、そういう点を顧慮しないで、ただ学校にきちんと来て、九八%の出席率を誇るのが必ずしもよいのか。怠けて学校へ来ないで、マージャンばかりしていては困りますけれども、卒業のときに論文もよく書けなかった人物が、実社会に出たら、りっぱな指導者になったという人もずいぶんおりますから、人間の価値の評価はひじょうにむづかしいと思うんですね。同志社精神の良心という問題は、ひじょうにむづかしい問題ですけれども、良心はあってもなくてもいいよというようなことをいうのは、だいたい時代が乱れている証拠なんですわね。そういう点を、同志社はよくみつめないといけないと思いますね。

住谷 数年前に同志社の宗教部で二千人ほど調査をしたとかのまたぎきですが調査の項

目の細かいことは別としまして、四七%余りがマイホーム型です。一身の幸福型、それから二二%が立身出世型です。それは東大中心の、人を踏みつけても自分が出世するという形ですね。それからあと二二%が社会改良型、社会改良といってもピンからキリまであります。共産主義、社会主義、いろいろありますが、社会改良型、そういう統計の結果が出ているんです。これは一つのバロメーターですが、同志社精神、あるいは新島先生の「良心を手腕に運用する」というのは社会に良心的に動いていくということですから、それを体験あるいは体得すれば、どっちへいっても共通なものが出ると思うんですが。その点に同志社の特殊性があると思う。一般性としては、一般の大学教育をやる。同時にそれにダブらせて同志社精神というものはキリスト教を日本的というか、新島先生的というか、そういうふうな体現したのが同志社の特殊性なんで、そういう普遍性と特殊性とをわれわれがつかんで同志社教育をすべきだと思っんですね。

東大の大河内さんに聞きましたが、東大の入学生の一八%は神経衰弱的で、そのうちの



中村 遼氏

五％は精神病院にいかなくちゃならぬ。なぜかといえは、小学校、中学校、高等学校で教育ママが尻をたたいて、東大、東大といってやってきた結果だろうという。そうして東大へ入ったら、あとほんやりしてしまつて、人間性を失つたような形になる。これを吹きだまりと称していると言いました。

そういうことの一つの例として、高等学校で東大を受験するという秀才が五人ばかり切磋琢磨していた。そのうち一人が死んだのです。そうしたらほかの四人のうち一人が、ああ、よかつた、競争相手が一人なくなつたと言つた。なんとという人間性を失つたことばか。そういう恐るべき立身出世型ですね。そういうものが同志社にはそれほどひどくないでしようけれども、とにかく立身出世型が二

〇％くらいあるという。そういう点はやはり教育のほうで考えなくちゃならんと思ひますね。

岡本 住谷総長のいわれたことで、私がふと考えましたことを申し上げさしていただきますと、いま大江さんから教育環境づくりの問題が出されたわけですが、それは、どこでどういう環境をつくるか、結局同志社をどうつくるかという問題だと思ふんですが、そのときに考えなければならぬことは、その社会のなかで、われわれは特別の人間だと思ふ人間をつくらないということだと思ひます。住谷総長のおっしゃつたことも、まさにそういう問題を突かれたのです。新島先生が、学生を丁寧に扱えといわれたということは、学生を人間として尊重するということでありまして、さきほど伺えば、いま同志社には、二八、〇〇〇の学生と一、二〇〇人の教職員がいる。これはたいへん大きな数で、古代ギリシャでいえば、小さなポリスにあたるくらいのものですが、このなかで人間の平等を確立するということであります。これはたいへんむづかしいことですけれども、同志社はそれをやらなければならぬ。

私は戦後十七年ほど教員として、さらにはじめの一年ほどは職員として同志社に在職をいたしましたから、その間の事情は体験的にわかるわけでもありますが、大学においては、たしかに職員蔑視の気風があります。職員はインフェリオリティ・コンプレックスをもつし、それをひっくり返して学生にたいしては、学生を丁寧に扱わないような傾向が生れている。窓口で突慥貪に扱かれて、挫折感をもつた学生を私は何人か知っています。もちろん私は職員だけが悪いのではなくて、その源は教員による職員蔑視にあると思ひます。教員と職員の間には、たいへんな差別があります。給与の面における差別だけではなくて、ここでの生活環境の点においても、たいへんな差別があります。職員にはリヴィングループがありません。教員には研究室と称するリヴィングループがある。こういうことで同志社が、りっぱな教育環境でありうるわけはない。

ですから、もし百年後の将来の同志社を考えるとすれば、この点において平等化を確立しませんと、やはり人を差別する人間が生まれてきましよう。東大だけにそういう人間が

生まれるというのじゃなくて、同志社だってやはり生まれるわけです。

それでは教員はそんなにえらいかという
と、ほんとうに学者として、教育者として尊
敬できる先生ばかりではありません。偉い人
であれば差別していいかという、むろんそ
うではありませんが、このあまり偉くない大
学の先生も中学校、高等学校の先生にたいし
ては優越感をもっている。だから、中学校の
先生になることを拒みます。そして中学、高
校の先生も大学教員に何か卑下感をいただき、
職員に対しては優越感をもっている。そうい
う一、二〇〇人をもっていて、キリスト教主
義とか新島先生とかいったってだめなんで、
ほんとの意味においての人間尊重を同志社に
於て社会的に確立させないと、教育環境とし



岡本 清一氏

てはけっしてよいとは言えません。それは東
大や京大と同じです。

職員と教員との間の差別をなくするという
ことは、たいへんむづかしいことだというこ
とは、私はよく知っています。しかし私は、
私たちの小さな学校の二年半においてそれを
いちばんはじめにやろうとしました。まだな
かなか成功しません。教員と職員との差別、
いわゆる職員蔑視の意識を社会がもっており
ますから、小さなコミュニティのなかでそれ
を実現しようと思ってもなかなかむづかし
い。しかし、一〇〇%とは申しませんが、八
〇%くらいは差別をなくすることに成功した
と思っております。こういうことを大同志社
は一、二〇〇人のなかで確立していただいた
い。このためには、やはり人格の平等を主張
してなくなられた新島先生の遺髪をつぐ総
長・校長、そういった人たちが粉骨砕身、努
力さるべきだと思います。そのうちに、どう
いう土地で教育するかという問題が考えられ
るべきだと存じます。

住谷 いま岡本さんのおっしゃったことで
エピソードがあるんですが、中学と高校とい
っしょになると、人事の面でも交流がある。

高等学校の先生が中学の英語を教えるとい
うこともあるわけですね。そうすると、高等学
校の先生は、おれは中学の先生で来たんじや
ないといい、中学校の先生は、おれだって高
等学校の教員免許を持っているんだという。
資格をもっている人はたくさんおりますよ。

そういうエピソードがある。だから、中学の
先生は高等学校の先生にたいして一つのコン
プレックスをもっている。大学の先生は、中
学や高等学校とちがうんだという優越感をも
って安心してしまふ。その証拠に、戦後、新
しい大学ができて、高等学校の先生がパッと
大学の先生になったことがある。そのとき、
ああ、もうかかったと言った先生があったそ
うです。高等学校の先生は大学の先生になるの
は困難だったですよ。助手、講師といけば別
ですが、そうでなければいけない。だから、
そういう意識がある。教えることは教えられ
ることだという、それが教育だと思っ
よ。そういう点からすれば、中学校も高等学
校も大学も、そんなことでとやかく言うべき
じゃないと思っ
ずね。

岡本 大学と高等学校、中学校との間の人
事交流ができますと、中・高等学校の先生方



中村 貢氏

も躍動をはじめられるだろうと思います。

私は理事長に進言を申し上げますが、高等学校、中学校の先生のために研究室を、個室でなくても、二人でもよろしい、個室ならなおよろしいですが、整備をされまして、勉強せん人もおられるでしょうけれども、おれも一個の研究者だという自負心ももてるようにそして職員にも同じようにお考えになっていただきたいと思います。中・高の先生があの大部屋で仕事をしていては、意気消沈されますよ。

秦 最近、だいぶん理科とか特殊な社会とか、ああいうものは、準備室と称する研究室を設けております。したがって、だいぶんふえました。物理は三人ずつの部屋ですけれども、大江さん、だいぶんふえましたね。

大江 そうです。

中村(貢) さきほど理事長がおっしゃいました田辺の問題ですね。百年に向かってならば、ぼくはいたし方ないと思いますけれども、やはり将来はあそこに学園都市をつくるような一つのビジョンをもって進むことがたいへん必要じゃないかと思います。あそこに大学があり、またあそこに女子大学があり、またそこに本部がある。本部はたいへんむづかしいかもしれませんけれども、いままで見ていると、おまえ行け、おまえ行けといって、本尊が動かないというところがあるので、私はむしろ本部自体が田辺にちゃんと中心をすえて、そこにひとつ学園都市をつくるというビジョンに向かって進まれることがひじょうにだいじだと思えます。

そうすると、ここの校地はどうなるかということになりましたが、やはりぼくは岩倉高校と中学が一つになることは、ひじょうに望ましいと思うんです。あるいはそれが不可能ならば、さきほど、どなたか短大のこと、その他語学教育のことをおっしゃいましたが、それも必要かもしれません、やはり最初の新島先生の理想もあったことであり、医科大

学ですね、医学部とその付属病院を設ける。これは金がかかるかもしれませんが。放談だから言わしていただきますが、医学部、その付属病院というようなものができることが、同志社としてはひじょうに望ましいと思います。

それからもう一つ言いたいことは、さきほど中村達さんでしたか、理事会というものもっと権威をもたなければならんとおっしゃった。これは確かにそのとおりだと思いますが、その先に、総長が、実質的な命令権とか指揮権があって、それによって総長の意向が同志社教育に反映していくことが、ひじょうにだいじじゃないかと思うんです。

住谷 そのことについて中村さんにぜひ聞いてほしいんですが、総長は大学のことにたいしていろいろ口出しをすることはできないんです。だから、私は、教授会なり評議員会には、総長なり理事長なりはオブザーバーでいいから出してほしいといっているだけけれども、それもなし。総長は大学に権限がないんですよ。権限がなくて教学責任がある。

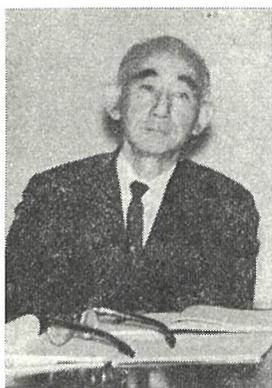
中村(貢) そういう権限がなければ、正しい方向にもっていくことはなかなかむづか

しいですね。

住谷 大学騒動で父兄から手紙が来たんです。名まえを書くに憎まれるから書きませんと書いて、授業料を四月に納めているのに六月から授業をしない、同志社大学は授業料の切り取り強盗かと書いてきた。みな私を同志社大学総長だと思っている。同志社には同志社大学総長はいんです。法人同志社総長はありますけれども。

中村(實) 百年を期して、ぜひひとつそういう問題を解決していただきたい。

大江 同志社全体の問題でありますから、理事会でもじゅうぶん検討してもらえると幸いです。



大江 直吉氏

私学助成

最後に、日本の大学に紛争が起りましたのちに、文部省あるいは国が私学の助成を大きく考えてまいりまして、とくに大学を中心に助成運動が実を結んできつてあります。それからさらに高等学校、中学校にもだんだん助成の枠が拡大されてまいりました。

そういう形になりますと、反面に私立学校としての特殊性といえますか、私立学校としてのいままでのカラーがしだいに薄れてくるという懸念も、また実際になきにしてもあらずです。そういう問題についてのご意見かどうかあるいはさきほどから、中学校と高等学校はいっしょにすべきだというご意見があったりまた現在の同志社の各学校がそれぞれ独立した形になっているのを、百年ののちには同志社の諸学校が大学の付属のような格好にしたほうがよいかその他いろんなご意見があるだろうと思いますが、そういうことについて、夢みたくないことで結構ですから、同志社の現状を考えて、百年に向かって私立学校としての個性をじゅうぶん発揮する方策などについて、

で、なにかご意見がありましたら、簡単に一人ずつお話を願ってこの座談会を終わらしていただきたいと思えます。奥村さんから順番にまわっていただければいかがでしょうか。

(笑)

奥村 私のお願したいことは、同志社の先生の問題ですが、質的向上ですね。もっと先生の学的、人格的な質を向上することを集中してやってもらいたい。関西における同志社の教授陣はほかの私立大学に比べて同志社のファカルティは必ずしも優秀だとは言えないと思えますがね。これは例としてよくないけれども、ノーベル賞をもらう人が同志社から出ないことはもちろんだけれども、新聞社から、こういう研究をしてもらいたいといって、大学の教授に奨学金を出している。同志社はだれももらってないでしょう。朝日新聞、毎日新聞みな奨学金を出すでしょう。同志社の先生がもらったということは全然聞かない。質的向上をはかるといふことを、ひとつ百年の大方針としてこれからやってもらいたい。

住谷 私は各教授にどのくらい業績があるか、五年に一回くらい調査すべきだと思います

す。いまの同志社は給料もいいでしょう。最近、文学部のある先生は、七十歳をまたずに六十五歳になってやめた。有力な先生ですよ。大学院の教師にどうしてならんかといったら、そういう内輪の抱き合わせのような、内輪同士の話ではいやだといってやめた。そういう先生もいるんですよ。それはそれとして、いまの業績を調査することは、必要だと思えます。それはなにも教授をやめさせるとか、給料を下げるというのじゃなしに、業績があるかどうかを調べる。

それからもう一つは、同志社を今出川に全部入れるということは困難だと思えますが、一部いるということでも、学生運動を分断する当局の陰謀であるといって反対するんです。だから、これはこのままにしておいて、向こうのほうへ新しい大学、私の考えでは、社会福祉大学、社会事業大学を設けて体育大学を結びつけば相当に利用価値があるし、大阪の社会事業大学、社会事業短期大学とも結びつくと思う。そうすれば、こちらの社会学のほうも移る可能性があると思えます。文学部が移るといことになったら大変ですから、社会福祉大学をつくったらどうだろう

か。これはもちろん金の問題があるから、簡単にいきませんけれども、これは私の夢です。

▲ この題目を見ますと、「3、百周年を迎えるに際しての大同志社の未来像について」その(4)が「国の助成と私立学校の将来」でございしますが、すでにご承知のとおり、これは憲法違反だといって衆参両議院の議員さえも賛成しなかったのですが、幸い議員のなかには私立学校の卒業生がひじょうに多く、そのなかでも早稲田のごときは多いんですが、そういう人たちが束になって、私学の助成ということが実ったわけでございます。昭和四十五年の予算では、わずかに百三十二億というのでございますが、これは経営費、すなわちそのなかには人件費を含むということになっておりまして、ごく一部でございしますが、医歯科、それから理工科、文理科、法経、その大学だけがようやく昭和四十五年からつきました。それから昭和四十六年では、さきほど岡本さんがおっしゃいましたように、できるならば教員と職員と両方与えるべきだというのがわれわれの考えで、運動しているんですが、これもちょっぴりいくかもし

れません。同時にまた昭和四十六年からあと四年、すなわち向こう五カ年間で、給与のベースアップされるものの半分だけはカバーするということを打ち出しておるんですが、われわれはそれを三年間でカバーしてくれというて、いま運動しておるのでございます。

それから(4)の「同志社諸学校の将来の在り方」ということについては、さきほどからいろいろとおっしゃいましたけれども、私もさきに申しましたように、現在の十の学校はそのままでもいいのか、やはり発展的な解消もあろう。それから同時にまた相当成長もしなければならぬということでございますから、やはり真剣にこの問題に取り組んで、さきほど奥村さんもおっしゃいましたけれども、教育的な施策についての掘り下げた再検討をすること、それから時代に即した同志社の教育のあり方をほんとうに専門的に、あるいは科学的に研究して、将来の同志社の教育を方向づける長期計画委員というようなものをこしらえまして、百周年だけで足りなければ高度の教育方針を立てる。

それから、さきほど理事会の弱体、あるいは

は総長、理事長の職務のあり方についてのお話もありましたが、これもやはり大きな課題だと思えます。これではなかなかキリスト教的な学校の経営さえもうまくいかない。したがいまして、百周年を一つのめやすにいたしました、この点について一つの大きな目標を掲げていきたい、こう考えております。

岡本 私には突拍子もないことを申し上げるようですけれども、おゆるし願います。それは百年をめざして、あるいは百年以後の同志社は、大学の海外輸出計画を立てられてはどうでしょう。日本は大学の輸入国ではありません。アメリカから、フランスから、カナダから、イギリスから、大学を輸入はしておりますけれども、大学を輸出した経験は、同志社はやはり輸入大学であります。アメリカン・ボードの資金を得て新島先生がつくられたものですから、これは輸入大学といつてよろしいと思えます。したがって、こんどは同志社が百年にあたって、大学を輸出したらどうでしょうアメリカ人にお返しすることも考えられるべきだと思えます。大学を輸出する。これは日本文化というようなものでなくて、大きくアジアの文化基地——基地というと、なに

か侵略みたいですね、そういうものを、たとえばアメリカにつくる。そのために少なくとも五百億くらい募金する。日本の財界および政府にその募金に応ぜよというムーブメントを興す。むろんそれを同志社で使うんじゃない、図書館を建ててくれといったようなケチなことを考えているのじゃなくて、アメリカに同志社大学をつくるんだといううったえを広く天下にいたしたら、あるいは嵐のような国民の共感を呼ぶかも知れません。日本はちょうどいまデパートまで輸出しておる時代ですから、これは財界でも、日本の庶民でも、応じてくれるのではないかと。

そういうような運動は、国民精神の作興、これは古いことばですが、国民に一つの自覚を与える運動になります。同時に同志社の国際主義的な精神にもマッチし、また恩を返すという意味もあります。新島先生を育てて教育してくれたアメリカにたいして、われわれはそのアメリカの子弟を教育する。しかも世界主義の時代だから、アメリカ人はヨーロッパのことだけではなくて、日本のことも、中国のことも、朝鮮のことも、みな知らなければいかんという立場からアメリカの青

年を教育する。同志社百年にあたって大学輸出計画を立てて、その運動の本部がここにつくられましたら、同志社もある意味で精神的に大きくなるのではありますまいか。そしてむろんアメリカだけではなくて、さらに同志社・イン・アラブを考える。インドも対象にする。掲げていけば限りありませんが、世界中に、たとえ名前は違って、多くの同志社大学ができたと思えば、これはすばらしいと思います。そういう夢を百周年にあたって育てることは、考えるだけでも楽しいのじゃないかと思えます。長い期間を要することですが、理事長さんも健康でひとつがんばっていただきたいと思えます。私たちも応援をいたしますから……。

中村(遙) 私は、じつは秦理事長がおっしゃったけれども、同志社教育研究の一つのグループといえますか、総長、理事長、から任命というか、指名した委員を設け、何べんか寄って、同志社教育というものはどういふものか、あるいは同志社はどいう方向をめざすべきかを検討する委員会を充足させる。これはたいした金もいらぬことであり、そしてがっちりした一つの理論体系の上に立つ

て、いよいよ百年になったらこれをやるという準備をすべきだと思います。

いま新田辺の土地は、学校をつくるというて買った土地なんですから、長くはって置くということにも、問題があると思う。そういうことについては、やはり責任体制を理事がしっかりとって、理事長中心に考えて、そして大阪をねらう態勢を創ることです。現在、同志社は大阪にはいないんですから、大阪から学生も来ますよ。香里までいけば、大阪はすぐそこです。新田辺は香里よりもやや大阪に遠い感じはいたしますが急行電車は年毎に時間を短縮してきます。ここに女子の短期大学と福祉大学を建てるべきです。大阪はなんといっても近畿の中心ですからね。新島先生もかつてはいちばん最初に同志社を建てようとした土地です。

ただし、私は中村貢さんにおことばを返すようですが、本部は、この同志社の発祥の地に置いておきたい。バナード・ホームは、全国的に多くの施設を経営しておりますけれども、その本拠は、バナード博士の発祥の地、イーストエンドの貧民窟のどまんなかにある。博士の精神をそこに生かしておる。

また住谷総長のおっしゃった社会福祉大学の建設は、たしかに新しい発想だし、非常に意義のあることだと思います。世界の方向、日本の方向は、いかにして福祉国家又国際的な福祉を実現するか、あるいは民族的な福祉を実現するかということであって、その点に力を入れて同志社の力を動員していくということは、ひじょうに興味のあることじゃないかと思えます。

またもう一つは、やはり同志社は世界連邦国家宣伝の一つの重要な基地であってほしい。やはり世界は一つになるために悩んでいる。将来一つにならなくちゃならぬ。原爆の洗礼を最初にうけた日本はそのために悩み又研究と努力を続けるべきだと思います。それは同志社も、その先鞭をつけていく姿勢をもつことが必要だと思います。

住谷 新島先生が鞭を手をたたいたという建物があるでしょう。あれを田辺へもって行って、そしてそれを田辺における教育の精神的な中心にしたらいいだろう。それは理事長もだいたい同意見だろうと思うのです。それがいま同志社の構内にある。そうすると田辺に新しくつくられた学校の意味が明瞭にな

る。そのことを私は考えております。

中村(達) もう一つお伺いしたいんですが、同志社のなかには、たとえば人間を採用するときに、人事委員会というようなものはないんですか。

大江 あります。

中村(達) 委員会はいちおう調べて、必要なか必要でないかを見て、そして理事会で採用するということになったらいいと思うんですが、それはできているんですか。

秦 あるのです。

中村(貢) いま総長から田辺に新しい大学をつくるというお話、これも大変結構でありますけれども私の考えとしては、ここは今まで長い間の伝統のある大学ですから、これがだめだとは総長はけっしてお考えにならないでしょうけれども、なかなかうまくいかんから、田辺に新しい校地を求めて大学をつくれというお考えでしょうけれども、向こうに新しいものを置いて、こちらにも古いものをそのまま置いておくというのじゃなくて、やはり向こうにもって行って、新しい学園都市をつくっていくという大きい構想をもって百年後の計画を立てられることのほう

が、非常に望ましいのじゃないか。そのためには、新島先生が鞭をもって手を打たれたほどに、まず本部自身が犠牲になって、犠牲という悪いかもしれないが、まず進んで田辺に行かれることがいちばん早道でないかしらんと思ったために、申し上げたわけです。

それからもう一つ、学問的にたいへん優秀な教授が必要であるということをおっしゃいました。それはもちろんそうでありましたけれども、私はそれと同時に、あるいはそれより以上に教育に熱心な学者がほしいと思うんです。きょうは論文を書くのにひじょうに疲れたから、講義はかんべんしてくれというような先生が、必ずしもなくてはならないように私は伺っておりますが、そういうことがないようにしたいがって、ここは三日ぐらいでやめておいて、ほかにアルバイトをということではなくて、アルバイトするぐらいの時間があれば、やはり学校において学生と接触して、いま学生との交流が欠けていると思えますから、もっと学生と親密になっていくという気がまあのある熱心な先生があつてこそ、同志社教育は成功するのじゃなからうかと思うんです。さきほど申しました学校としての新島精神の

実現ということとは、結局そういうことを申し上げたかったわけでありませう。

それからもう一つは財政問題ですが、これは今まで独立採算ということになっていきます。そのために、ある意味において各学校は進歩してきたと思えますけれども、やはり総合学園という上からいえば、そこに一部プール制というものをせひつくってほしいと思つては。

これは前にも一度申し上げたことがあると思いますが、どういふ金をプールするかといへば、結局各学校の受験料ですね。受験料のたとえは一割なら一割というものをプールの。学生の金はけつしてほかのほうへ使わないうということがよくいわれますが、一割くらいならば、けつして学生の金ではなくて、受験に合格しなかつた人々の金だというふうに考えてもいいし、つまり、同志社を望んでやってきた受験生たちの金である。同志社全体のために受験料の一割をプールすることは、けつして無理なことではないと思つて。同志社大学の受験料がだいたい二億五千万円、その一割ならば二千五百万円。女子大学の受験料は二千五百万円くらい、もう少し少ないです

か、それにしても二百五十万円くらいはプールすることができると思う。こうなつてくると、少なくとも二千六、七百万円、あるいは七、八百万円というものは、同志社の全体のために使うことができるわけですね。そういうことでほかのひじょうに弱い学校を助けていくこともできると思います。このことをなんとかせびできるようにお骨折りをしてほしいと考へております。

河北 私は簡単に三つのことをお願いも含めて申し上げておきたいと思ひます。

やはり田辺の校地の問題はなんとか実現する努力をしてほしい。どういう形で実現したらよいか具体的に検討してほしいということが一つの希望です。学生運動を無視できませんが。

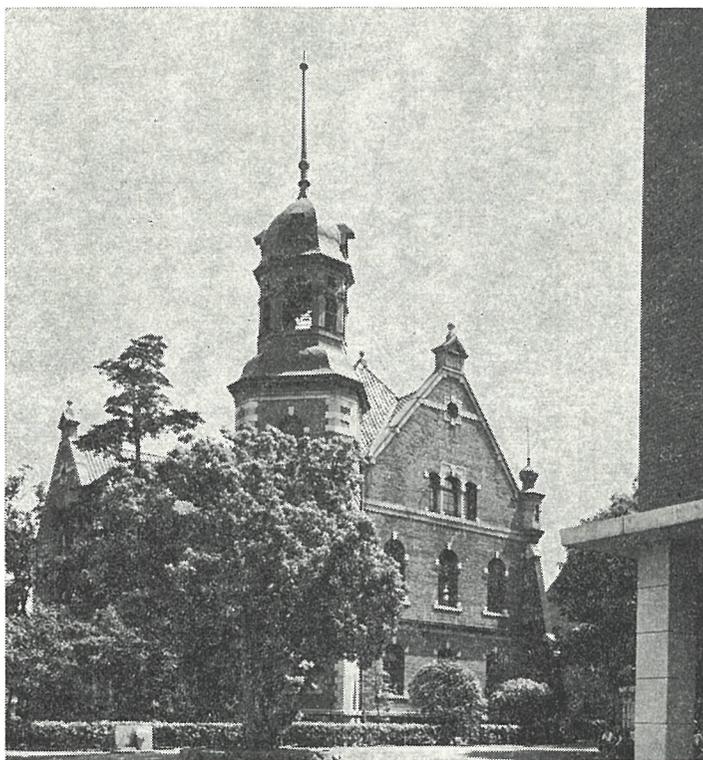
それからもう一つは、付属高校、付属中学という問題は、利害得失を論議する価値がある問題と思ひます。

それからもう一つの問題は、やはり神学部の問題になる。これは率直に申し上げましていちはん教育が徹底できる環境にあるはずなんです。教授の数と生徒の数、それからゼミにおきましても、他の学部の子よりも徹

底できるはずなんです。だから、現状から申しますと、教授も一つの城に閉じこもっておられる。私はやぶにらみかもしれませんが、なにか教授になりやすいのが現状ですね。そういう点からすると、これはいけばいいやな話ですが、文学部神学科にでもすれば、先生方はじっとしておられない、生徒ももっと選択できる。いまのようなシステムではなしに、水準も高くなると思いますが、しかし、私はけっして文学部神学科を望んでいません。神学部はこれでよいのかと大いに反省する必要があるんじゃないかとにかくそれは同志社の精神的なシンボルである。ただ、学生運動がある程度鎮まったからよいというようなことではなくて、この辺でしっかり考えていただきたい。どうしてもいかなければ、文学部神学科でもやむをえない。そうすれば物理的な力でもよりよくなるだろうと私は思います。以上です。失礼お許し下さい。

大江 ひじょうに長時間にわたりましてどうもありがとうございました。それではきょうはこれで終わらさせていただきます。

(一九七〇、十、九)



アンケートに答えて

同志社が近く百周年を迎えるにあたり、次の項目について御意見、御感想をお願いしましたところ、左記のような御回答を得ることができました。

(回答者ABC順)

(設問)

- (1) 同志社教育の改善・改革すべき点について。
- (2) 同志社の特色であるキリスト教主義の昂揚について
- (3) 百周年記念事業について。
- (4) 私立学校の将来について。



原 忠 明

(1) 教育の完全実施という点で現状では大学に多少の無理が生れている。教育施策の重点が、時代の流れとともに、経営面に比重がかかり過ぎている。言いかえれば、学校経営が優先して、教育が第二義的になっているところに問題がある。教育と経営の一致点を見出すべきだ。同志社教育の基本は人間の形成と教養におくべきで、大学と大学院での教育方針は自から異なるべきであり、大学は大学院の準備コースではない筈だ。さらに教授陣には同志社卒業生をより多く迎えることが望ましい。そしてこの際思いきって、同志社の子弟を優先的に入学させるよう具体策を研究すべきだ。体質改善のために。

(2) 同志社教育の特色であるキリスト教主義の教育が、うすれつつあることは、時代の流れとも云うべきであろう。しかし建学の精神としてのキリスト教主義は、今後とも生かさるべきだ。ことに中心学部とも云うべき神学部が同志社の教育を引上げるだけの自覚をもってもらいたい。そのために教授陣を含めた神

学部の内容の充実を切望する。新島精神の理解徹底はキリスト教主義の昂揚に通ずると考えるので、新島先生の研究機関の設置と研究誌の発行をはかるとともに、新島精神を国民にPRするために適切な手段を講じてもらいたい。これに要する経費は、日米合同の維持財団を設置して援助を行うこと。

(3) 新島講堂の建設、収容能力を五四人位とする。場所は烏丸の一角で、可能なら御所の一部を解放してもらおう。所要経費は募金で賄う。

田辺の活用のため短大の設置と、分譲住宅の建設、運動施設の整備をはかる。

(4) 学校とは教育の場であり、同志社が本来の姿にもどつつあることにホットしている。私立大学の経営は非常に困難である。しかし英国では政府の財政援助が大学財政援助の基幹になっているという。日本では私立大学の成立とその発展の過程をみると、各大学とも夫々独自の性格を持ってその歩みを続けてきた。将来も同様であるべきだ。私立大学も国立大学と同様に、政府の一般会計への援助があつてしかるべきと思う。それも現在の様な僅かな額でなく、予算総額の比率の上

でも領けるものであるべきだ。私立大学に学ぶ者だけが、学費と納税の二重払いにならぬよう配慮されてしかるべきと思う。

(同志社校友)

秦 孝治郎

「先哲志」を遂げよう

ここに掲げた「先哲志」とは、同志社創立八十周年に際して、われらの先輩徳富蘇峯先生が揮毫された扁額の大字である、幸い理事長室に掲げられているので、朝夕それを仰ぎ見て、自己の教訓とし、我れを振り立たせている。創立九十周年に当っては、記念事業の目標を十項目計画した、創立百周年に記念事業を自論むならば一つの余考として改めて記録して見よう。

一、創立者の遺訓に基く精神教育の徹底強化。二、法文系研究設備の充実、語学教育施設の拡充。三、理工学教育の拡大と研究所の充実。四、女子教育並びに幼稚園教育の進展。五、奨学全制度の拡充と学生会館の完備。六、教職員に対する福祉厚生の改善。七、校地の拡張と体育施設の充実。八、植林による百年

の大計と基金の安定。九、新島襄全集発刊と同志社史の完成。十、校支、同窓連絡機関の強化。

以上のはか、各学校の体育施設や教室の建築に相当額の支出をなし、一応現在の教育計画に対する物理的な施設は充足し、新島先生創業以来の実蹟を回顧しつつ、「記念事業募金史」を上梓することが出来たのである。

他山の石ながら慶応義塾に於ては数年前、創立百年式を挙行して、天皇、皇后両陛下を迎え、大規模な盛典を催したとの事であった。

わが同志社は、もう五年経てば創立百周年を迎えるのであるが、以上に掲げた創立九十周年の事業目標を今一度検討し、若し完遂出来なかったものがあれば、勇気を以て之れに対決せねばならない。

僅か五年後の今日とは云え、激変した我国否、世界の教育界が期待するものは果して何であるか、わが同志社に於ても、学園紛争の洗礼をうけた現状に於ては、眼に見えない、教育内容の改革や、自家頭上の施策に対する問題が、幾多、眼前に立ち並んでいる。

歴大な岐阜の山林に満足するものではない、田辺の巨大な校地を擁すだけで、わが

学園の新天地が自から開拓されるものではない、すべては各大学、各学校それぞれが創意工夫し、研鑽し、大きな生みの苦しみを経て、打ち出す二百年へのヴィジョンこそ、来るべき創立百年記念事業企画に対する問題提起であるべきであり、この資料を基礎として、真に「先哲志」を大成し度いものである。

(同志社理事長)

林 淳 一

(1) 次の時代の同志社を担う後継者の養成に真剣に取り組み、助手・研究員の層を厚くする必要がある。特に女子大学では実験・実習の助手に専任が認められず、臨時職員で行なっているので後継者について憂慮に耐えない。百周年を論ずる前に現在のきわめて不均衝な人員構成を是正しなければならぬ。

中学・高校・大学間の連絡を密にして、一貫教育を推進する。

(2) 二百周年までの百年間の発展のために種をまくような事業であってほしい。同志社はややもすると外見の美しさに重点を置く傾向があるが、必要なのは内部の研究・教育設備

であることを忘れてはならない。

また、社会に奉仕する事業、たとえば成人の再教育なども計画に入りたい。

(3) 中学・高校については公立校との関係から見て樂觀は許されない。大学についてもかなり厳しい事態が起るかも知れない。これらのために全同志社の一致をはかることが第一である。共学校と女子校との二本立てという制度も再検討する必要があるかも知れない。

(女子大教授)

久永省一

すでに遅きに失するうらみはあるが、これはもう遅いなど言ってはられない危機感をおぼえる。もし同志社が(2)の項目のように、同志社百年を前に、「同志社の特色であるキリスト教主義の昂揚」という旗印をかかげ、ほんとうに奮い立ちとうとするのであれば、なぜ今までに……この危機感をおぼえる今のときまでに、それに対する対策が構ぜられなかったのであろう。

同志社教育の改善、改革すべき点といっても、いちばん大切なのは、機構よりも人であ

る。キリスト教主義の基本精神がうたわれていながら、それを守ってきた人たちが定年によつて次々と姿を消してしまい、そのあとを埋める人が入ってこない現状である。

同志社人の苗代を育てるべき中高に、同志社精神を身につけた教師を送る機関、とまではゆかなくとも、そのような仕組を当局や大学で考えていただきたい。文科系、理数系とともにふくめて……。

(中学校教諭)

市村真

(1) a、高等学校の延長といわれている一般教育のあり方について抜本的に改革する必要があるのではないか。昨年各学部で作成された改革案を早急に検討され、せつかく衆智を集めて作られたもの故一日も早く実現の方向にもっていつてもらいたいもの。

b、これはかならずしも同志社のみで検討されるべきものではないが、講座をオープンにして、他大学の授業も学生が受講できるように、また他大学の学生も同志社の授業を聴くことのできるよう学生が自由にワンダリングでき

る学制を考えてはどんなものか。

c、マネジメントサイクルではないが Plan-Do-Check はあっても何事によらず check する機構に欠けているように思う。評価が次のプランにつながるようなシステムがほしい。

(2) 低学年、特に一年生は高校生活からの解放感が強く、宗教学やチャペルアワーなどに興味を示す者が少ないように思う。従つて就職も決定し殆んど単位をとっている四年生の後期あたりに一四年間をふりかえつて同志社を卒業するにあつて一番なごりをおしむであらう時期に一半年間みっちりキリスト教にもとづく徳育を断行すべきだ。

(3) a、外にあつては、九十周年に行なつたものより大規模な学園のPR、記念切手の発行、主要新聞への全面広告、百年史の刊行、新島襄から現代につながる同志社を背景とするテレビドラマ(あるいはドキュメント)の製作と放映、教育界・財界等の同志社出身者による講演会、同志社デーと銘うって京都市民と校友・同窓・教職員とその家族全員参加によるまちぐるみの全交会などと学園同志社とともにありと広報活動の一大ページェントをくりひろげる。

b、内にあっては校地の整備、例えば各学部の研究室を一つにまとめて交流をはかる、学生へのサービス向上のため事務機構を一堂にあつめた事務棟の建設、田辺校地の有効利用への着手等。また同志社奨学金の増額と「徳政令」の発布を考えても？

(4) 産学協同ということばはすんなりと受け入れ難いといわれている。しかし産業界に迎合するというのではなく自らが人生に生きがいを感じ、しかも未来社会に何らかの形で貢献していくという使命感を学生にはもたせねばなるまい。その意味ではスペシャリスト養成を目的としなければならぬ半面、自由・幸福・民主主義・健康・道徳・哲学・平和といった問題を広く深くあつかうシンクタンク的存在となるような特色ある学校にしてゆかねばならない。

(大学職員)

神谷 雄 績

(1) 同志社を蓋っている「動脈硬化」という主題についてなら、私のような若輩者でさえその戦慄においてマルクスやキェルケゴール

やさらにドストエフスキーにすら比肩することができます。

「精神の老衰がもたらす永遠の優等生」、「モンセンスの権化」、「行動への過度の妬忌」、これらが同志社を支配している血統書つきの人々の気分なのです。

ところが現在の同志社が真に必要としていることは、実を言えば外部からではなく内部そのものからの新しい逆上や錯乱なのです。

文明そのものに対する強い問題意識と実行力を持った若い階層に同志社の運営を委ねることが望まれる所以です。

(2) キリスト教は現在の同志社が具現しているような見せかけの平安をもたらずものではありません。(マタイ10・34)

歴史的イエスが、その時代と場所において一人の異端者であったことは福音書の随所が証明するところです。

ところが実に、現在の同志社は倦怠の精華と化し、キリスト教がここでは個人の安寧の、保身延命の、地位獲得のための卑屈な女術となりはてているように思われます。

歴史の痙攣を自己の痛みとして受けとめることなく、キリスト教の昂揚のみを標榜する

ことは創立者自身の本懐にも、キリスト教そのものにも反する挙です。

(3) 記念事業が美しい辞や、荘嚴な建造物で創立者の偶像に新たな粉飾を加えるための事業であるのであれば、その意義そのものが私たちの掌を摩落ちてしまふでしょう。

むしろ百周年は、徹底的な論争をまきおこし、新島精神を超克することによって、新島裏の精神そのものを蘇生させなければならぬ時機の到来と解すべきだと思います。理想の追求は常に途上のものであり、絶えず批判に晒されなければなりません。

そのためには、私たちは創立者の屍の悪臭を怖れてはならないのです。

(4) 私学の将来は、その「発展」を第一の目標においたとき、少なくともその原理においては崩壊するでしょう。

私学は教育の「深さ」をその本義とするところによって、教育の徹底的な自主性を指向すべきであり、私たちはその帰結としての「発展」をこそ期待するのほかありません。

(大学職員)

(1) 同志社に学びたいものは誰でも学べるようにしたい。授業科問題を理事会はじめ全学園で真剣に考えていただきたい。

(2) 私は同志社のキリスト教は空気のようなものであり、美味しい井戸水のようなものであると思うし、いつまでもそうあってほしい。カン詰めの空気や、着色ジュースなどに化けないことを祈るのみ。

(3) 社史の完備を希望する。九十年小史は読みものとしても大変面白く、思わず歴史の渦中に引きずりこまれる思いのする場面もあるが、山本宣治がわずか一行位で済まされるようなことに何か物足りないものがある。

(4) 我々私学に働くものは、真に国民教育の一端を荷っていることを確認しよう。特に同志社にはそれが必要。それなくしては私学の将来は有り得ないのではないか。(1)の提言と全て関連する。

(高等学校教諭)

(1) キリスト教主義——キリスト教を徳育の基本とする教育の徹底・強化・昂揚することであると信じます。

人もし全世界をうろつとも、その魂を失しなわは何んの益あらんとの言葉がありますが、同志社の外観・設備が如何に立派になっても、また学問的にどんなに優秀になっても、もし同志社からキリスト教主義の教育がなくなつたとしたら、最早や、それは同志社ではありません。魂を失つたものであります。

同志社の現況を見ているとキリスト教主義教育が次第に稀薄になつていくように感じられて、慨歎に耐えません。創立百周年を期して、何事をするより先づ第一にキリスト主義教育の徹底・強化・昂揚を計るための諸施策を実行に移すべきが急務であると信じます。

(2) この項の質問は「同志社の特色であるキリスト教主義の昂揚について」とあり質問の趣旨が明確でないように私には感じられませんが、私は昂揚するについての具体策につい

てとのことでお答えいたします。

第一は神学部が、もっと確りして欲しいと思います。先生と殆んど同数の学生に先生のキリスト教的魂を徹底して移して欲しいと思います。

第二は将来の教授になる人物の採用に当つて、同志社の徳育の基本はキリスト教であることを考慮しておられるや否やは頗る疑問であると思います。如何に学問的に優秀な人物であつても、徳育の基本にそぐわない人物は採用しないように、すべきだと思います。

上記二つを実行すればキリスト教主義は自然と昂揚されてくると信じます。

(3) 田辺の新天地にキリスト教主義教育を徹底するための諸施策を実行するため調査、研究機関をつくるべきだと思います。

(4) 大学教育を受けんと希望する人口は将来ますます増加するものと思ひます。しかも国立大学で、これを充すことはできないと思ひます。だから私立学校の任務は今後重大であります。多額の費用を要する教育を、如何に経済的負担を少なくして実施すべきか、これは私学と国に与えられた大問題で、これと真剣に取組んで解決すべきものと思ひます。

(同志社理事)

岸田 敏馬

(1) 同志社教育の改善改革すべき点について
中学、高校等に於ては、新島先生が同志社を設立された主旨を守るべく努めて居られることは認められるが、大学に於ては何等他の大学と異なるところがなく同志社大学としての特徴を求めると極めて小さい、学校経営の上から見ても現状のままでは困難となる。

大学学部を経営学部を新設して経営者を育成する教育をし年々三百名位を全員入寮させ朝七時から夜九時迄教育を行い商経工文法の基礎教育を行い寮生活を通じて人格、語学、礼議作法を修めさせる。教授は日本一流の先生を招聘する。入学金学費はこの学部経営に充分な金額とし、入学者は学科試験のみによらず、この学部にあふさわしい人柄を選び将来日本の指導者になり得る素質のある者を選ぶ(2) 同志社の特色であるキリスト教主義の昂揚について
学園内授業休憩時間に各所に於て神学部宗教部教授学生を中心に伝導の説教と行い又キ

リスチャンの学生サークルを奨励する。

(3) 百周年記念事業について

- 1、田辺校地に新学部出来れば経営学部、医学部、情報学部、未来学部、海底工学部、宇宙工学部を設ける。
- 2、田辺にスポーツ施設を完成し、合宿所も完備する。
- 3、校友同窓会館を設ける。
- 4、新島全集を発行する。
- 5、安中、熊本の付近に同志社学園を開校する。

四、私立学校の将来について
特質を持たない私立学校はつぶれ、国公立では出来ない、特質をもった学校は栄えると思う。

(同志社評議員)

児玉 実英

(1) 同志社の教育主義の伝統にいま一度たちかえることが、重要なものではなからうか。
先日わたしは、伊豆でおこなわれた私学連盟の研究集会に、依頼をうけて、出席してきました。そこで多くの人が語っていたことは、近

年の研究の質的変化ということだった。最近専門分野における研究の尖端においては、専門そのものではなく、専門領域と周辺領域とのかかりあい、ないしは、いくつかの分野の総合による研究が多くなされつつある、ということだった。専門の尖端では、専門以外のこと問題になっている。したがって、四年間の大学教育にあつては、専門の学問の教授だけが最終目的とされるよりは、むしろ、広い学問領域の知識を与え、専門分野との関連づけをする力や、総合的理解力、ないし判断力を養うことが重要ではないか。そのため、総合コースの設置も必要だろうが、その点、従来の学部学科制は検討の余地がないだろうか、といった問題が話題になった。わたしも、自分の研究や授業にてらして大いに興味と共感をおぼえた。

大学における教育と研究が、着実に離れていく現在、両者は、はっきりわけて考えられなければならないのではなからうか。今までのように、研究の充実、教育の充実につながる、といった単純な考え方は改め、研究の充実、たしかに教育に反映することは認めながらも、教育には教育独自の問題があり、

それをおろそかにすることは、つつしまれるべきことを、今一度反省すべきであろう。

わたしは、教育哲学や教授法といった、教育学の領域の問題だけを考えているのではない。いわばそういう「教育の研究」も重要であろうが、私が教育の重視とか教育主義ということばで考えているのは、もっと、かんとんで基礎的なことなのだ。

吉野山花咲くころは朝な朝な

心にかかる峯の白雲

という新島襄の歌の中に読みとれるような、学生一人一人の成長にたいして、良心的な責任をもっていくという、教育にたいする同志社教育の伝統的な心構えを回復することなのだ。

「同志社教育の改善、改革すべき点」は、この視点に立った上で考えられるべきと思う。
(2) 宗教的体験をもつことなしに、一生を経る人は、不幸といわれるべきだろう。

「人類は今までに百万年生きてきた。あとせいせい三百万年しか生きられない」とは、いつか、生物学者でもある湯浅八郎先生がわたしに教えて下さったことだ。地上に人類が死に絶えるときには、永遠と思われていた「真

理」や「芸術」も無意味に無目的に回転するだけなのだろうか。このようなことを考えるとき、深みの次元における体験のない人は、不幸ではないだろうか。

わたしはそのような現在、二つのことが、必要と思う。一つは、宗教教育の充実である。キリスト教に関する知識や知識構造だけを教えるのでなく、実存のかかわりをもつ問題をなげかけ、答の糸口を示唆するようなコースを充実していくこと。もう一つは、その一つの答を明確に与えていく同志社教会の再建である。いまほど、新しい内容と新しい建物が同志社教会に求められているときはないだろう。

(なお、今年9月はじめの文部省令によると、「キリスト教学」「聖書」といった科目は、大学の「基礎科目」として一般または専門教科学の単位に組み入れることが可能になった。)(3)と(4)田辺に新大学を

現在、社会は大学にたいし、量的にも質的にも、より多くの、より高い高等教育を要請している。これには反対意見を唱える人もあるので、(たとえば中教審の中にもあるときいている)一概にいいきることはできないと

しても、大学受験者数の増大はなによりそれを雄弁に語っているだろう。この要請は、社会の前進につながるもので、私は、正しい要請だと考える。高度の高等教育が可能であり、またいまだに生き生きと感ぜられる高い理想を創立の精神としてもつ同志社は、その社会の要請に、当然、こたえるべき義務があるのではないだろうか。

わたしは、田辺になん度も足を運んだことがある。たまたま学生部の仕事をしていたとき、田辺校地第一号の建物を建てる計画に加わったからだ。(今も建っているあの建物のぶかっこうさは、責任の一端があるかもしれない。しかし、廃材利用という命令の範囲内で、設計は、できるかぎりのことはやった。)おかげで田辺のことはよく知っているが、同志社教育の拡大充実の地として、また新しいピスガとして、この何人かの人々の努力で与えられた田辺の地は、最適といえないまでも、十分利用価値があると思われる。

端的に言って、ここに、新大学を発足させるべきだと、わたしは考える。われわれは、創立百年にむかって、創立三百年の計をもたねばいけないだろう。卒直にいうと、ここで

は、少数教育大学と大規模大学の両方の長所を生かすクラスター・カレッジの概念を導入するのが最もよいと思われる。『ジャーナル・オブ・ハイヤー・エジュケーション』に掲載されていたシンポジウム「クラスター・カレッジの概念」によれば、アメリカでは、千をこえる大学の相互協力事業があり、広義のクラスターグループは五十をこえ、なお急激に増加しつつあるという。それは千名から二千三百名程度の小さい大学の集まりであり、実験室、中央図書館、その他大規模な設備を共有し、その点経済的利点があり、教職員、学生の共同体的アイデンティティが保ちえ、同時に交流が容易にでき、また種々想像力にとむ研究的、教育的企画も可能だといふ。このような考えに立って、同志社は、田辺に新大学を考えるのがぞましいのではないだろうか。しかし、具体的なヴィジョンは、それこそ想像力にとむ、また同志社を愛する多くの人々の創造力とエネルギーが結集されて、はじめて、作り上げられうるものだろう。

(女子大学教授)

松井 七郎

- (1) 教育組織の改善。
行政機構の合理化。
人事管理の改革。
- (2) 教職員は原則として基督教徒又は基督教賛成者のみを雇用すること。
- (3) 財政的基礎を強固にするため基本財産(不動産、有価証券、金銭等)を確立すること。
- (4) 大幅の国庫補助を受くべきこと。

(経済学部名誉教授)

宮下 千代

- (1) (イ)何よりもまず、教育者としての教職員の質の改善すること。
(A)立派な教育者を採用すること。
(B)研修会等を開き質の向上を計ること。
- (ロ)学園が平静に戻っても学生が提起した問題のうち改革すべきものがあれば真面目に改革すること。
- (ハ)同志社の寮の姿勢を正すこと
官立の寮のように自治の美名にかくれ

て、寝て起きる寮だけでは意味はない。創立者の念願される真の自由自治の精神による立派な共同生活の場とする。

- (2) 血と涙をもって同志社のために祈る会をもつこと。私が同志社に入学当時は創立五十年に当り、祈りに明け暮れて同志社の生命がみなぎっていた。祈りは信仰生活の中心で祈りが消えかけると信仰も弱くなる。現在の同志社は祈りの火が消えかけている。同志教会の一部の学生は讚美歌も歌わず祈りもしない。牧師の説教を妨げ栄光館の礼拝堂を封鎖して多数の人の信仰を妨害した。これが創立百周年を迎える同志社の現状とはまことに悲しい限りである。私はあえてこの時代に河村圭子先生と相談をして寮の祈禱会を築真館の池のほとりで去年の五月から始めている。心ある同志社人の祈る会が各所で起らんことを熱望している。

- (3) (イ)日本一の設備をもつたすばらしい同志教会の建築をすること。現在同志教会は間借りをしている。教会に惜しまず援助をすれば同志社教育は振興する。
- (ロ)保育所を設置すること。
- (ハ)老人ホームを建設すること。

(一)寮の改築。

同志社女子大学の常盤寮及聖洲寮は木造であるため、近代設備のある立派な寮を建てること。

(4) 官立との差が、ひどすぎるから私学助成金を、ほとんど要求して教育条件をよくすること。但し私立学校の特色は、ますます伸ばし、創立者の精神に生きる立派な人物を養成すること。

(女子大寮務主事)

中井 清 允

(1) 同志社には現在幼稚園と、三つの中学校、四つの高校、二つの大学あり、概して中高校と大学とは益々乗離の傾向にあり。普通部からの出身者にとっては、全く寒心にたえざるものあり。財政面の健全のみでなく、創立者の普遍的な立学の精神も、今もなお健全なるやを反省すべきである。

(2) (1)の改善によりて自ずから解決されるはずである。

(3) 六十周年式典の際生徒であった私は、同志社に入学できた意義を強く認識させられ

た。それより四十年世は変れど、全校友同窓学生生徒教職員の感銘深きものを得られる年代であることを期待する。

(4) 徒らに増設、増員、昇格など、私学はどこでもいつでも伸びるものとばかり思っているとはいけない。厳しい淘汰の時代が必ずくる。その時代にあたって、新島先生の二百年、千年の同志社の存続の確固たる自信を持たなければならぬ。

(女子大厚生課長)

仁井 国 雄

(1) (a) 教科研究の強化

選抜された入学生徒に対し、各教科ごとに最もよき教材を準備し授業形態を工夫するのは我々の義務と考えます。そのため、地味な日常の研究を掘り下げ強化せねばならないと思っています。

(b) 生徒に気力を持たすこと

生徒に「ヤル気」を持たす必要を痛感します。一通りのことはするが、もう一歩前進がない。クラブ活動の面では改善の跡が見られるが、知的好奇心の点で極めて不足

しています。問題学習形態をとる。読書指導を強化するなど対策が必要です。

(c) 学内推薦入学制度の確立。

(2) 宗教教育は地下水のようなものと考えています。日常の宗教教育をより着実に実行し中高六年の間にキリスト教的なものの考え方をしみ通らせた。目の前の事態に一喜一憂しないで将来卒業生が人生の重大事に直面した時に聖書に近づく——そういう宗教教育をしたいと考えます。

(3) 経営の基礎を固めること

校長は経理規定により経理責任者ということになっていますが、経営のことによりは教育プロパーの方に力を用いたいと思います。記念事業が総花的でなく、各校の経営について多大の時間をとられることがなくすむように各種の工夫をして載せたい。京都女子学園が実施された基金の設定や常任理事制の採用などを希望します。

(4) 同志社出身でないだけに同志社の良さが分っている積りですが、同志社を守り育ててゆく気持を学園全教職員がしっかりと持つならば予想されます種々の危機も乗り切りうると考えます。

(女子中学・高等学校長)

野村 芳雄

一貫教育の徹底

(1) 先づカリキュラムの面で中・高・大学の教員相互が密接な連繫を計り教育内容の重複を避け欠陥を補い合うこと。

次に中高は完全に近い推薦無試験入学だが高校―大学は一定の枠により人数を制限する為に、生徒の志望していない学部は無理に押し込められたり学外の学校へ廻されることがあり遺憾である。同志社中高で新島精神を充分培われた者が大学を満すべきである。又教育実習はつとめて同志社の中高で行うとよいが受入人員に限度があるのが残念である。

(2) 単に神学部或は宗教部だけに依存せず、各学部・中・高校にそれぞれ専任のチャプレンを置き、彼等が相互に密接な連繫を保ち又一般の教員も協力一致してキリスト教教育の昂揚に努めるべきだと思ふ。

又各教会との緊密な提携が必要である。

(3) (a)同志社小学校の設立

同志社の一貫教育を更に徹底する為に

幼少の時から新島精神とキリスト教精神に満ちた教育を行うべきである。

(b)同志社音楽大学の設置

現在、女子大の学芸学部は女子のみ各学年僅か二十五名の音楽学科があるが人間性の最も深奥なる処に迫りその浄化をはかる音楽教育は男女を問わず重要である。然るに女子のみでは混声合唱や大管弦楽による荘大な宗教曲や古今の偉大な作品の全貌を表現し難く、結局個人的な指導に傾き易い。どうしても、男女共学の音楽大学を設置すべきである。

(4) 私学の経営は授業料だけでは限界があり困難である。さりとて国の多額の援助を望みその為に統制を強化されては私学存立の意義は無い。「金は出しても口は出さない」援助を求むべきだ。又同窓校友はじめ財界からの直接の寄付による基金を持ち運営の基盤とすべきである。

(女子中・高教諭)

大橋 寛政

良心の全身に充滿した丈夫の養成つまり、

真の人間教育に徹底せよ。学問、技芸はその次の問題である。今の同志社はそれが逆になっている。創立者の意図を実現することに使命を感じるなら、そういう教師陣を確立せよ。そしてもっとキメの細かい精神教育を実行せよ。同志社は大きくなりすぎた学校法人同志社は個々の学校に法人格をもたせ、自からは包括法人となって創立者の意図を遵奉する学校にのみその不動産を貸与したらよい。

同志社が看板だけでなく、本気でキリスト教主義学校でありたいと願うなら次のことを実行しなければならぬ。一、キリスト教的人生観をもって世に立つ人材の養成を目的とする。二、経営責任者はすべてキリスト者。三、教師はすべてキリスト者。四、学生、生徒はすべてキリスト教教育について善意の関心を有する者であること。五、キリスト教に関する教科を必修とすること。六、創立者に関する文献、資料を教材とすること。

私学は一つの事業でありそれなりに関係者の努力は評価されねばならないであらう、百周年といえは、何か記念に歴史の編さんをしてもらいたいと思うが、自己礼賛でなく、深刻な反省の歴史を作ったらと思う。記念募金も九

十年記念のが終ったばかりではあるが、テンポの速い時代のことである、今の十年は昔の百年に匹敵すると云うから改めて計画しては如何、但し額は九十年のときの倍額を期待したい。

私立学校は特色をもって出発したはずである。その特色が色あせたものになっているならこの際もういっぺん創立の精神に立ちかえり再確認しなければならぬ、私学の活きる途はそれ以外にない、とくに同志社において然り。国の助成金も私学の特色を推進することに支障があるようなら辞退した方がいい。

お金はいくらでも欲しいが金の為を節を曲げるようなことは絶対にしてはいけない。私学の将来について一番心配なのはそれである。

(香里中・高教諭)

岡本 昌夫

(3) 同志社はこの十年間に創立以来他の何れの十年間と比較しても決して劣らない大きな発展を遂げた。今出川校地には数多くの巨大なビルが建ち並び、烏丸通りには市民の目を

見張らせる会館が建ち、新町にも新たな校地が設けられた。今後は今出川と新町の校地にはこれ以上の校舎の新築は殆んど不可能となったといつてよい。従つて今後は、新たに郊外に校地を求めて発展するか、建物は現状のまままで研究と教育の充実に意をそそぐかの何れかでなければならぬ。筆者は教育者としては後者を切望するが、ただ同志社百年に際して更に発展の要請に答えるとすれば、先年田辺に購入した広大な土地を何とか有効に利用する方法を考えねばなるまい。記念事業はこの点に注目して進められねばならない。具体的方策としては、新しい学部の新設、高くないし中学校の新設、研究所(人文系、社会系、理工系を問わない)の移転或は新設などが考えられる。他に体育或はレクリエーションの施設の充実ないし新設も考慮に入れてもよい。そのためには、衆知を集めると共に英断を以て決定されねばならない。

次に記念事業の一つとして同志社基金の設定を提案したい。衆知ように欧米の大学には巨大な基金があつて、それがその大学の運営に大きな貢献をしているが、わが国の私学はこの点において大きく立遅れている。この際

同志社創立百年を期して少くとも十億位の基金の設定を計画されることを望みたい。その基金はいうまでもなく、教職員的生活の安定、研究教育の促進、学生の福祉の増進等のためのものである。

(同志社評議員)

奥村 龍三

(1) 同志社教育の改善、改革すべき点について

学園の質的向上、先ず教職員の質的向上から。日本の所謂、完全雇用、終身雇用は良い面はあるにしても、極端にいつて無能教授が終身増俸スケールのエスカレーターに乗つて暮してゆける制度である。それには色々の改良すべき制度や規則がある。第一大体部長とか学長の大きな任務は教授達の研究、研鑽にどれだけ努力しているかをよく管督し指導する事である。然るに同志社では選挙で而かも就職順で定められているので、その為め幾年たつても学実績の上らない教授がその儘居据わる事になる。米国大学の様に毎年学長の手で教授の考課表を作つて教授の進退を動

かせる方法も、この際考えられないだろうか
と思う。

2、次に同志社教職員組合のあり方に問題がある。又同志社の選挙制度の改革は急務である。教職員と一部卒業生とが団体行動をもって票を集め、互いに対立している現状で、学園の重大な責任を負うべき評議員、理事制度にそれが大きく反映し、悪貨が善貨を駆逐する傾向がある。

3、学園の庭園を綺麗にすることは学園に奉職する教職員の任務であって、近頃の学園風景は実に聲に堪えない次第で、これ位の改良が出来ないようでは信を何処に求めているのであろうか、ケネディ大統領曰く「地上最高の美しくしき花園―即ち大学―」と

(2) キリスト教主義の昂揚について
これは集会を又制度を作っても昂揚するものではない。教職一人一人の信仰が学園の偶々に反映するものである。私は一つの具体案として総長学部長校長が三日四日閑静な処に退いて、リトリートの時をもって、この問題について、各自が厳正な自己内省をさるる機会をもたるる事である。そして、少くとも年一回はそれが計画さるる学園の習慣行事とな

る事を希望する。

(3) 百周年記念事業について

同志社の国際性をより発揚する為め、海外特に東南アジアの諸国から毎年留学生をうける資金と制度を樹てる事で、これは同志社の国際性と基督主義精神とをもって実施すべき事であろう。

(4) 私立学校の将来について

駅弁大学、マスプロ大学から脱皮して、特色のある、学園樹立に懸命になることで、三万に近い学生と一千二百人の教職員、そして四十五億の予算で運営される大同志社に大切な主義精神その特色を生かす為め或いは多少否大いに縮少されても然るべしとさえ私は主張する。

(校友会理事)

大倉 三郎

(1) 學術の研修に取組むことは当然ですが、それを通じて又は並行して、人間性の正しい育成、良識ある個性をもった社会人の練成に主眼を置くこと。学ぶ者が表面の浮動に心を奪われることなく、机上論に捉われず、視野

を広くし、学識と良心の総合判断に立って、国家社会を思い、自からなる積重ねに挺身せしめるような綿密な指導練磨が大切だと思います。入るは易く出るは難い修練の場として、また上の方針を無視して徒らに非行に走るような者は容赦なく退学せしむべきでしょう。具体的案件は学内で話し合う機をもつて頂きたいと思います。

(2) 人間教育の基盤としてキリスト教主義を奉ずることは、母校伝統の力骨であり、これを度外視しては同志社精神の法灯は消え失せる外ないでしょう。連綿と光輝あらしめたいものです。一方、進展しつつある社会文化の様相や思想的性格の側面から一考すれば、必ずしも一宗一派に限られることなく、個々の思念に応じて、それぞれ特色ある宗教的情操の啓発に、協力的であることも考えてよいと思います。激動する時代の荒波に、精神的人格要素を広く深く滲透させ、生活一般に宗教的信仰を呼びさますことが、何より大切と思うからです。

(3) この劃期的な記念の時ににおいては、まず校友同窓が膝を交えて談じ合う場をもつこと。教職の方々も交えてわが伝統をも一度囁

みくだき味い直し、新島精神の盛り上げを計ること。また(1)(2)の問題について意見や希望を開陳し合い、互いの啓発に資すること、などの機会が与えられれば幸いです。前向きな力点としては、田辺校地への移転造成を進行して、物心共に新時代の真の教育の場として、同志社の面目を一新、関西の一劃に聳える巨大な樹木たらしめて、枝を張り葉を茂らせたものです。

(4) 次代の国家社会を荷って立つべき青年の研修練磨といった教育本来の意義から考えてみれば、学校に国立・私立の区別のあること自体、おかしいとさえ思われます。従って、私立も公団のような性格をもつ重要な一社会機構として、適切な運営のための諸経費等を国が援助するのが当然でしょう。その代り、私立学園も国家社会との連帯使命において、教育研究の内容充実はもちろん、マスプロ授業の制限、各専門分野に應ずるきめ細かい指導育成等々の実をあげるよう、直接間接に公共への奉仕に努力せねばならないことは言うまでもありません。

(女子大教授)

小野 則秋

(1) 独算制実施以来近來各校のセクト主義の悪弊が目立て来た。これを打破して真に綜合学園としての同志社教育の真価を發揮するところが肝要。

(2) 建学精神としてのキリスト主義昂揚には大学講義の中に同志社史の講座を置き同志社中・高以外から進学して来た学生達にも同志社精神を理解認識させる要あり。

(3) 田辺校地を開発して諸教育施設を整備し、発展し行く同志社の先端基地とする。

(4) 形式化した官学模倣の時代は過ぎた、私学は私学としての特異性が充分發揮出来なければ転落する。

(本部職員)

杉 瀬 祐

(1) 同志社教育について、今日次第に私立学校の特色が再び重視されようとしています。従って単に一般的な設備や組織の整備だけでなく、同志社の特色とする精神教育、良心教

育が行えるように、そのための組織や設備として、第一義的なものと、第二義的なものを明確に識別すべきではないでしょうか。それについては教職員の志気 (Heart) の昂揚が大切と思いますが、従来、次第にやる気をなくして自分の領域に閉ぢ籠ってしまいか、無意見、傍観的にならざるを得ないような傾向風潮があつたように思います。やる気を起させるように。

(2) キリスト教主義の昂揚について

(A) 建物・設備の必要。他学と比しても全く不十分です。

(B) 教職員の問題。少くとも理解し協力する教職員を。

(C) 全同志社連携の中でキリスト教主義とは何かを、真剣かつ具体的に協議・研究してゆく組織と運営を。

従来、大学宗教部にあまりにも委せすぎではなかつたかと思ひます。

(D) 学校と教会との関係について明確な理解の確立を。

(3) 百周年記念事業

○今出川烏丸角にでも、二千人位収容出来る壮大なカテドラルを建ててほしい。

○新島襄全集出版企画は、放棄されたときいていますが、何故か知らないが大変困難とは思いますが、今の時点で出来る限りの資料を蒐集・出版しないと、後になればなるほど一層絶望的になるのではないか。

○記念事業の企画・運営は一部に偏するのでなく、全同志的なものを。(九十周年事業では一部残念に思った点もありました)

(4) 私立学校の将来は、いろいろな困難な問題が起ってくるものと思います。殊に、国家の教育管理や体制との関係において。しかし、これは創立当初から同志社が正面から取組み、背負って来た十字架と思います。それに、一層時代の複雑さが加わってくることでしょう。やはり、私立学校の運命は、どのような卒業生を世に送り出すかということで問われ、決定されると思います。従って、私共は、どのような人物を養い育て、この世の中へ送り込むかという教育的な真剣さを大切にしたいと思います。

(女子大助教授)

瀧山 秀乃

- (1) 立学の精神を再確認し、これを具体化する。例えば、授業内容を充実し、休講をなくする努力は、学生を大切にせよとの新島先生の遺訓の一つにつながる。
- (2) 全学園が日々の礼拝をまもる。
- (3) 新田辺の土地に同志社歯科大学を新設する。

(女子大教授)

田中伊佐久

(1) 国禁を犯して渡米した新島襄先生自身が革命的实践者であったのであるが、米国にてキリスト教信仰を与えられて、オランダの軍艦を見て海軍の建設と船舶の建造をもって国運の隆盛を計りたいという単純な愛国の志士ではなく、真誠の自由を愛し、「良心の全身に充滿したる丈夫」を養成すること彼の使命となつたのである。これは永遠的な性質をもつものであって、その建学の精神こそ同志社教育の爆発的エネルギーとなつて来たのである。同志社教育はこの自由と良心の建学の精神は常に改善改革の基準でなければならぬ。私学としては最もはつきりした建学の

精神をもつ同志社は絶えずここに立返って反省すべきで安易な経営主義の学校に陥ってはならぬ。改善改革の具体的問題は学校当局、教授団、学生たちが自らに問うて検討すべきだ。

(2) 新島先生は「吾人はキリスト教を拡張せんがために大学を設立するにあらず……この主義をもつて品行を陶冶する人物を養成せんのみ」と言われているが、キリスト教主義とは何かということである。当時の富口強兵を是とする物質的実利主義的な国風に対して永遠の価値を目指す自由と良心に根ざす生き方を言われているように思う。しかし、これは礼拝が行われ聖書が重じられることなくしてあり得ない。新島先生は同志社教会牧師を兼務され、又非常に熱心な伝道者であった。すべての教授、すべての学生がキリスト信徒であることは今日望むべくもない。又それを強制してはならぬ。我々は同志社教育の根幹としてそれがいかに小さくとも神を畏れキリストを信ずる礼拝の団体をもつべきである。中・高は先づよしとしても、大学は各部に宗教授者を置いて建学の精神をすすめる必要がある。

(3) 百年記念事業としては徒らに外的事業をなすべきなく、多くの学生を広く欧米、東南アジアその他の方面に留学視察せしめ広く人類に奉仕するものを養成する門戸を開らくことがよいと思う。又、海外より多くの留學生を迎える制度を設くべきであろう。このグローバルな（地球的な）時代において、これは同志社百年を記念として最もふさわしいのではないか。

(4) 私立学校は(1)に既に述べた立場に於て同志社の如き私学が本来の建学精神に立って自由と良心に基く學生を養成するならば現代の動脈硬化的現象の危機を突破するエネルギーの根源となるであろう。明治に帰えれと言うのではない。同志社の伝統的精神が学園の中に生命的に溶解し躍動しているかである。學問的表現の背後にあるものが私学の使命である。

(京都丸太町教会牧師 昭・十四年文神卒)

湯浅 八郎

(1) 余りにも多くの問題を含んでいるから、簡単、早急に回答不可能。

(2) 教職員キリスト者が、その人間関係、生活態度、価値観において、キリストの精神を澄しすること。

(3) 田辺校地に第二の綜合学園を計画し、その実現に努めること。

(4) 独自の目的、使命、性格などを明確にして、断えずわが国教育界の革新と、社会の進運に寄与すること。

(同志社評議員)

(1) 時代の激しいそして急速な移り変りにまきこまれることなく、それに適合するように改善改革する態度をもつのは当然である。大学のチャペル・アワーを一例にあげる。現状ではチャペル・アワーを殆ど経験することなく、又宗教的なもの、その雰囲気さえも全く感じとることもなく卒業していくものがあるのではないだろうか。

(2) キリスト教主義の昂揚は大いにすべきであらう。現状はむしろサボッテいる感じがする。勿論キリスト教主義のおしつけはいけない。キリスト教を宗教的な面のみならず、学

問的な面からもひろめればキリスト教そのもののへの接近の気持、態度は異ったものがあらわれてくると思う。

(3) 創立百年という一つの大きな時期であるからには何かすべきである。が、形式だけが整ったような記念事業は好ましくない。現在のように大世帯になった同志社で、建学の精神、創立の歴史はともすれば忘れられようとしている。全同志社の学生・生徒そして、そこで働く者たちにそれを考える時間と良い資料を与えては如何？

(4) はっきりとした主義、良い教育目標をもってそれも実践する私立校は、その時代の影響をさまざまに形でうけながらも、発展し、ますます歴史を深めていくであろう。

(無記名)

(おわび)

この他に、ご回答をいただきながら、紙面・切等の関係で記載できなかった方々には、ここでお詫びいたします。